

# INFO SATAKE

2018 Spring vol.12

## 大規模生産者向け乾燥調製機械 新ブランドで誕生



# SAXES



乾燥機が処理  
量30石から65  
石までの8機  
種、粉摺機が  
粉摺ロール5  
インチタイプ  
の1機種で  
す。(2面へ続く)

**かつてない耐久性性能で  
プロ農家をバックアップ**

サタケは、大規模農家や営農集団向けとして、耐久性を向上させた穀物用遠赤外線乾燥機および粉摺機「SAXES」(サクセス)シリーズを新発売しました。消耗部品の材質変更や熱処理による耐摩耗性の強化、高グレード品の採用などにより、従来機に比べ耐久性が向上しました(遠赤外線乾燥機の場合1.5〜3倍)。部品寿命が延びることで、稼働中のトラブルの減少やメンテナンス費の低下が期待でき、ユーザーのメリットが見込まれます。また、従来機種との差別化を図るため、前面操作部(フロントカバー)などのデザインを一新し、シリーズに統一感を持たせました。

同シリーズの機種構成は、遠赤外線穀物

## サタケの名機⑧

製粉機事業分野の営業マンとして96年に入社した私は、精米市場に直接触れることはありませんでしたが、光選別機の需要が精米市場において、飛躍的に拡大していることはよく知っていました。

サタケは当時、米用と雑穀用に別々の機種を製造・販売していましたが、私が担当していた東南アジア地域ではほとんど雑穀用の光選別機が売られていませんでした。雑穀用としてはサタケUSA社製の「スキャンマスター」が主流でしたので、同社の営業責任者にサポートしてもらいながら、彼らの販売実績を参考に推進を始めました。

その時、最初に注目したのがベトナムのコーヒー市場です。当時すでにブラジルに次いで世界第2位のコー



光選別機  
スキャンマスター

ヒー生産国であり、ロブスタ種に限れば第1位でした。多くのコーヒー豆を輸出していて、輸出に必要な品質をクリアするために、大手のコーヒー輸出業者は精度の高い不良品選別が不可欠な状況だったのです。そこで月1回は現地のコーヒー生産地を訪問して輸出している業者へ営業推進を開始したところ、今ほど競合他社も無かったこともあり、訪問すれば必ず1台は受注できました。

スキャンマスターは運転調整が手動ダイヤル式で、調整がとてもしンプルでした。また、当時のベトナムを含め東南アジアでは、タッチパネルになじみがなく、ダイヤル調整のほうが現地のニーズに適していました。

スキャンマスター自体も非常に安定した性能で評判になり、また同時に現地のサービス体制もしっかり構築したことで、多くのお客様に満足いただくことができました。その結果、ベトナムだけでも1000台以上が納入され、多くが今でも現役に稼働しています。



アジア事業部  
川手 薫

**Challenge!**

**サタケ**

大切な未来のために、  
私たちがチャレンジすること。

新しいことにどんどん手を挙げて挑戦できる。  
「出る杭は打たれる」という言葉があるが、サタケは違う。  
出る杭は引き抜いて、鍛え上げて太い柱に育てる。  
私たちを取り巻く食料問題、環境問題。  
人間の創造力無くしての解決は難しい。  
新しいことを生み出すチカラを育て、活かす。  
それが、サタケの使命。

**出る杭になれ。**

open up a frontier.

株式会社 **サタケ** 【広島本社】広島県東広島市西条西本町2番30号  
フリーダイヤル **0120-084-058** 企業情報・製品情報・ニュース <https://satake-japan.co.jp>

チャレンジ **Challenge! サタケ**

SAXESシリーズは各部が強化されており、かつてない耐久性性能を備えています。



乾燥機  
SDR3000  
~6500X

# おもな強化箇所

## SAXES シリーズ

■昇降機上下駆動部  
高防塵性ベアリングの採用



■昇降機上部  
ステンレス板の追加



■コンベアケース  
ステンレス板の追加



■上部スクリュ  
浸炭窒化処理・バー追加



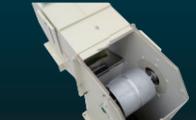
■バケットベルト  
ベルト材質変更により耐久性向上



■昇降機カバー  
材質にステンレスを採用



■スポーツ  
材質にステンレスを採用



■上下部スクリュ駆動部  
角フランジ型ユニットの採用



■下部スクリュ  
浸炭窒化処理・羽根板二重構造化



■ロータリーバルブ駆動部  
メタルプッシュの採用



籾摺機  
SRZ5500X

■レッドロール  
ゴムロールには高耐久のレッドロールを標準装備



■飛散板  
籾摺部飛散板の板厚増加



■揺動アーム  
軸の材質変更、揺動アームの板厚増加、補強部品の追加



■振動コンベア(コンロッド)  
コンロッドの材質に鋳物を採用



## サタケ公式ウェブサイト をリニューアル



サタケはこのたび、公式ウェブサイトのリニューアルし、2月28日に公開しました。今回リニューアルを実施した主な目的は、次の3点です。

1. 個人の方、農業の方など、それぞれの訪問者に最適な情報の提供
2. スマートフォンやタブレットなど、さまざまな端末に適応した表示操作性の提供
3. 採用情報の充実による学生への訴求

このうち「それぞれの訪問者に適した情報の提供」については、多岐にわたる訪問者のうち「個人の方」「農業の方」「法人の方」「就活生の方」それぞれの入口となるアイコンをトップページに設置。見たい情報を迅速に閲覧できるようにしました。

今後も継続的に、本ウェブサイトの充実を図り、訪問者にとってより探しやすい、使いやすいサイトを構築していく考えです。

URL <https://satake-japan.co.jp/>

## VICTAM ASIA 2018に出展

サタケは、さる3月27日から29日までの3日間、タイ・バンコク国際貿易展示場で開催された「VICTAM Asia 2018」(主催：Victam International (BV))に出展しました。「VICTAM Asia 2018」は、米と製粉、穀物、飼料に関するアジア最大級の展示会で、2年に1度開催されており、今回12回目を迎えます。サタケも毎回、出展しています。

今回展示実演する多用途シュート式光選別機「ピ力選別(アルファ)」は、原料中の不良品や異物をフルカラーカメラで識別し、圧縮空気で除去するもので、さまざまな穀物や豆類、加工食品等に対応します。今回はさらに、飼料用穀物の挽割機や、ヘンリーサイモンブランドの製粉機器などの紹介も行います。

タイをはじめとする東南アジア市場において、精米機器分野ではサタケが広く認知されている一方、製粉機器や飼料用機器の分野での認知向上が課題です。今後もさまざまな展示会等を通して、幅広い分野での認知向上を図る考えです。



## 東北佐竹製作所が創業50周年

サタケグループの生産部門を受け持つ株式会社東北佐竹製作所(所在地：岩手県北上市)は、3月14日に創業50周年を迎えました。



本格的な農業機械化時代が到来し、顧客のニーズに対応した生産体制の確立が急がれていた1968年、米どころの東北地方で物流に適した北上市に、量産機種である農家用乾燥調製機械の生産工場として社員65名で同社は創業しました。

近年は農業の大規模化・集約化が進み、量産体制から多品種少量生産へ、変化が求められるようになりました。そのため、現在は作業工程の自動化や従業員の社内外研修などに、積極的に取り組んでいます。

山下文雄取締役工場長は「この50年で2度の洪水被災や東日本大震災、過去3度のTPM賞※受賞など、さまざまなことを経験しました。今後も環境の変化に迅速に対応し、高品質な製品づくりや生産技術革新が継続できる工場として、全社員となつて生産レベルの向上に取り組みしていきます」コメントしています。

※TPM賞：Total Productive Maintenance (全員参加の生産保全生産経営)により成果をあげている国内外の事業場等を表彰する賞。

## 佐竹鉄工が鉄骨製作工場 Mグレード認定を取得

佐竹鉄工(所在地：広島県東広島市豊栄町)はこのたび、国土交通大臣より鉄骨製作工場認定制度におけるMグレードの認定を取得しました。

これまでサタケが穀物加工プラントの建設を請け負う際、必要となる鉄骨についてはすべて外部の製作会社より供給を受けていました。しかし近年、建築需要の増大に伴い鉄骨など建築資材の需要が逼迫しており、安定的に調達するうえでの懸念材料となっていました。

そうした懸念を軽減するため、サタケグループとして鉄骨製作の一部内製化を決め、製作に必要な鉄骨製作工場認定を取得すべく、準備を進めてきた結果、昨年12月26日付けにて同Mグレードの認定を取得、本年1月26日に認定書を受領しました。



Mグレードの認定取得により、製作する鉄骨について建物高さや延床面積など建物規模による制限が無くなります。今後はより一層、鉄骨製作の内製比率を高め、資材の安定供給を図るとともに、きめ細かな対応で顧客のニーズに沿ったプラント建設に努める考えです。

## 2018年も週休3日制を 試験的に実施

サタケは、ワークライフバランス推進の観点から、昨年に引き続き2018年7月～8月の5週間に週休3日制を試験的に実施します。

サタケは、福利厚生上の向上やワークライフバランス推進の観点から、さまざまな取り組みを行っており、昨年は夏季の5週間に週休3日制を試験的に導入し、実施結果や反響などを調査しました。その結果、家族とゆつくり過ごせた、十分な休息がとれたなど、社員の多くが週休3日制を肯定的に捉えました。一方で、社員の約2割が展示会対応や顧客との打合せ、プラントの建設現場作業などで出勤しており、課題も明らかになりました。

これらの結果を踏まえ、2018年も引き続き7月～8月の5週間にかけて週休3日制を試験的に実施し、本格導入への検証を続けることにしました。今年は、基本的に金曜、土曜、日曜日を休みとするともに、対象日の出勤を回避するため業務計画の見直しや客先への通知を早めに行うことにしました。なお、対象社員はサタケおよびグループ会社2社の約1200名です。

